



佳唐蘇墨去序

禮部

能謂中二種。其案。彼甚為前雪  
 之。凡骨。其。之。之。附。合。の。味。を  
 を。疑。賞。亦。其。其。是。正。凡。也。他。造。り。り。  
 其。用。沾。漬。り。流。ま。を。と。ま。み。く。洒。落。を  
 一。道。り。と。ま。す。を。昔。時。の。評。者。の。所。論。を  
 今。の。評。者。と。異。入。ま。中。の。骨。格。を。言。協。入。  
 或。ハ。入。ま。句。の。句。の。絶。妙。也。其。是。也。其。を  
 此。語。が。案。被。色。を。持。ら。流。を。と。ま。す。中。葉  
 ら。ま。り。次。洒。落。を。い。や。り。正。凡。の。一。個。中

下

おのびも。己の福業うて交友の御  
 あり。世に相手を稀に。洒落に  
 傾き。沈滞のまゝ。本面目が  
 知る。沈滞。さしむる。今志の飾  
 正當。存義一座の眼目ありて。沈滞は  
 醜る好士の。一。補力なき。世と。同  
 志の。勤め。まう務る。童麿の香  
 さを流し。序あり。

春夢



存義

番子養獲おかり。同の家  
 招小本。火吹竹。のま。婦。中  
 合点。を。さ。ろ。客。ひ。ひ。蛇。所  
 吉原。を。少。び。き。も。せ。と。番。花。を  
 酔。る。居。る。仲。居。実。物。と。名。の。中  
 猪。菊。も。多。楽。し。居。る。用。山。忌  
 元。か。し。眼鏡。の。合。し。長。徳。家  
 △ 鞆師の。居。る。辛。夷。の。花。咲。く  
 村。中。に。多。尾。の。母。少。く。な。ま。れ。て

○ 生  
 フセ  
 スヒフ  
 カサハ  
 ヨフフ  
 五十二  
 カワカ  
 トメコ  
 エニハ  
 ムタソ

○ 修驗 忘 紀念 梓  
 故事 餓 梅 田川  
 持佛 沈 濁 沈  
 放鳥 買 多 家 信  
 助 當 う き 林 根 留  
 眉 の 糸 死 ま 友 ぬ 怪  
 卯 大 刀 養 徳 出 産  
 小 丸 又 替 母 小 盲  
 子 守 遊 戸 糸 猪 糸  
 棒 降 通 市 不 沈 守  
 乃 能 巨 蛇 宇 人  
 世 脈 切 脈 切 春 田  
 世 上 鼻 向 接 待  
 世 近 宮 獲 物  
 世 近 宮 獲 物

エコーハ  
アソヨ  
カエハ  
ヲヨ  
クヨ  
フヒア  
エツ  
サワア  
イ子  
セ  
ナヒカ

色々のゆきなり  
しらの道をうて  
も附はるに之  
能く又定り  
すくくさくあつ  
まのうよ  
かくしるうは  
あ中の地ま  
換り  
本士の情とよ  
いひまへ  
誠意あり  
たのやま  
うら

枝も重毛皆斤身く初彦公  
胡葱の側ももさぬ娘志著  
開帳の江戸へそくりふ初彦  
老りか降の志やきりふ初彦  
泉守もささるる汚き子乙女  
古書の人未振るあゆさ  
赦免ふれり多約等知折  
た近のあゆとよる初彦  
猪の徳治平老の後  
葛蒲もささる封疆の朝涼  
中くは思負の身く款討

○五

エコーハ  
アソヨ  
カエハ  
ヲヨ  
クヨ  
フヒア  
エツ  
サワア  
イ子  
セ  
ナヒカ  
エコーハ  
アソヨ  
カエハ  
ヲヨ  
クヨ  
フヒア  
エツ  
サワア  
イ子  
セ  
ナヒカ

○弱方し岐菰の  
京物雜馬市  
空也忘 庄宮伯  
餅搗 育馬 畏  
年忘 人質 基  
煉掃 年男 川  
侶侶師 寺 一  
蓮 苗守 彦房  
清盛 祇王 祇  
松の内 元日 宝  
香とり 古河 旧  
幕 野守 古河  
西行 忘 野

買明

物忌のやうな小娘治の古用干  
僧心をと猪母ハ抱きてぬくを  
一橋の十日をたぬ二十日  
何やうと母も孫もぬか忌の  
園の火をとりととあへる管れ火  
中りよのあやうをい元日  
あやう 仲孫うさるる名  
猪くも及す古河の園守  
大原女の梳りあぬ髪のを





カアス  
サキカ  
之ト  
之工  
セカリ  
トタ  
ナウ  
タハ  
ヒフハ  
子ア  
イフ

歌との怪  
仍  
中長  
改  
さうくわうきき  
あきんまを中  
きんの千の白  
あううの  
かひ切らるる  
よふうあま

菊とのく歌きさうく  
石のまじくゆかま  
新考書  
知ぬ佛  
高深く  
年一  
ふの年  
大神  
信  
大内  
入

出

モタ子  
クハハ  
之コサ  
之ニヤ  
工キマ  
イヨク  
コイ  
夕モ

○弱也狂女討死  
倍 太刀持 足鼎  
州菴 通夜 冥虫  
夜軍 落人  
鏡直 百子 煩  
児捕 在迂 屏居  
嶋守 物怪 物狂  
宿直 之とく  
和子 清女 披構  
美子 呪咀 葦葉  
葦子 生歌 大所  
秋

鶏口

物狂を詠うま  
右交  
公事  
たつ  
刃  
浪  
家  
子  
疏

アア二  
 フフフ  
 カクフ  
 ナセニ  
 エキキ  
 トイ  
 ヨフキ

此のうりうり  
 河にわたりあり  
 白と黒の  
 ろまのふり  
 ありき  
 ありき  
 ありき  
 ありき  
 ありき  
 ありき

一命を命  
 不二義くす  
 かんこも  
 高良辭  
 万の界  
 人愛の  
 在る  
 紫玉  
 妙死  
 きく  
 あり

アアム  
 エハム  
 メケリ  
 ハルカ  
 ヴヒヨ  
 中フヒ  
 カア三

強弱  
 軍中  
 伯夷  
 新君  
 高城  
 大官司  
 官方  
 吊洛  
 三神  
 雲南  
 さき  
 仙術

**祇丞**

揚屋の  
 高城  
 茅草  
 蓮の  
 田の  
 つき  
 あり  
 河内



イニラ  
カワア  
ミフワ  
フス  
アアオ  
タテフ  
カクオ  
カヒコ  
切ト  
オヨヒ

こかくさし...  
附ある...  
田女の...  
是古一...

幾度をしめぬのかくも...  
勘定の後...  
水を月子...  
二鬼の山...  
痛ひよ荒...  
首級と出...  
祭席歩閑...  
神楽の火...  
川色に松...  
階子ま...  
△茶桶の...

ウケ  
ニイオ  
子コカ  
テアカ  
七カ  
ケカ  
父カ  
セケヨ  
父オサ

原

○和也 京地名  
雪さくらり新敷  
母 彦丹 松物  
兄 僧 定  
寺  
世持人の...  
百年忌...

多少

生れさき...  
二交う二交入相...  
麻く...  
ふりさ...  
りほ...  
競馬...  
ま...  
撰集...  
桐経...

セニホ  
 コロエ  
 ユリハ  
 ツホト  
 テハチ  
 アサキ  
 ツナヒ  
 ハマハ  
 キヤイ  
 サハバ  
 カミフ

海もあつと  
 こかく地も平  
 地ありと  
 赤い地  
 赤い地  
 赤い地  
 赤い地  
 赤い地  
 赤い地  
 赤い地  
 赤い地

○出  
 アア  
 マイト  
 トナチ  
 アア  
 ハナチ  
 トハム  
 ウナチ  
 エアチ  
 ハカハ

○和し 買明志  
 のダ 和なり  
 極物 地名  
 左近 伯海  
 京よ  
 玄く山  
 万葉 猪鹿  
 舟名 若狭の舟  
 頃 妹うも  
 狂女 とおの秋  
 駒込 駒章  
 枇杷 苅子  
 軍 苅子  
 梅 岡 田松

清見寺庭より梅の帆をよき  
 皆活と金く塚も忘心を悔  
 白るを階りく畑も早伯皇  
 十九年なりうなるう二年忘  
 生念下の鉢鉢千入翁仲  
 時の鐘極ハちうく客をう  
 元日てう成つううき百年忘  
 許さき又和とさう種うき  
 兄貴の丈うへき生少魂  
 様目多千一 破船僧ある  
 腑の子をうくむい丹居り

温克

あくる日も恙なく行く者  
 松島ハ伊勢よき新うき  
 東寺うく近くも西も心修り  
 鶴をやうく秋ハ桂もう後一也  
 初めを初を何きの魂まつり  
 鳥羽境母の流せしと 妻 鶴  
 交れて仲居り山と名の本  
 清原よあうりのあき種雲と  
 婿の素被へ定うれ妻あふ

トソノ  
ヲモコ  
ホコニ  
上三イ  
リフサ  
エノチ  
ア十ハ  
ツニハ  
アケコ  
リハク  
イハカ

鳥遊 津由  
通夜 競馬  
女人堂 櫓  
禊 本屋所

さうくの中  
まうくく  
あきさ  
蓮野  
岸七地  
岸七地

原  
カヨ  
ア  
ツヨム  
子イウ  
上十  
キツフ  
ウニニ  
十ホニ  
アマタ

○強弱あると  
こもこ強き方  
こもこ弱き方

巨福路  
魚板石  
とちり

務舎  
表道の地名  
雨降山 薯毛道  
三崎のつも  
さきちり  
あきく

戸のくともまき 細くおちる火  
さきちりの床さハ墓の怖しき  
佛ももさるもまき 西東  
江戸で言はせしき 舟も伊路の志  
茶うううううううううううう  
さくくくくくくくくくくくく  
麻布の習ふて曲る 秩父道  
月限の女房の悔日あくる来て  
菴涼くもも想ま 腰け基  
利生あき伯遠を恨めハ葛咲て  
今うううううううううううう

# 在轉

上総屋まの前の夜山を  
△圓可寺と屋の息吐吐跡  
鶴亀を喰むと石の村くれ  
猫塚をたむく 尋ねあまら  
画阿の短るく名のうい青  
木戸ひとくつむやおおの不二流皮  
うろこはとまのさまき 蛇形の井  
あまのわとまき 伊香保の塩籠  
ゆきうゆの帯を金主の多力雄

ヤリ十  
コエテ  
ヤスカ  
セヨア  
メスス  
リロイ  
フノヨ  
正三八  
ヒユハ  
セタハ  
ツモ三

実渡崎  
二浦の  
芝舟の  
川立へ  
小碓と  
内川  
江戸と

ハケコ  
ハカ  
ホ  
ス  
ハ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ  
コ

○強弱  
雛  
義士  
日光  
貝境  
名將  
庵下  
年市  
石切  
古

宿の  
曆あり  
山焼  
関の  
對向  
や陽  
舟庭  
江戸  
平山  
関へ  
九代  
目  
て  
度  
して  
仕  
ど  
ふ  
之  
様

# 祇徳

傾  
母  
互  
双  
ハ  
古  
小  
似  
い  
ら  
ん  
と  
い  
を  
ぬ  
仲  
居  
る  
年  
の  
は  
き



サリ  
ヤハ  
ヨイコ  
カハフ  
トナ  
ミマイ  
ソヤ  
イカ  
ワツア  
ムム

駒幸 旗の爰  
欲 凌  
貧 命  
長 靈宗  
生 必 布 絶  
他家 榮 陽  
狐 支 離  
五戒十戒と云ふ  
蘇生 日の氣  
入定 秘 死

送るあ半ア 獲年お老  
顔髯の目まをいとやきまう  
世中ハ一夜の後まらふらう  
幸ううう伯はらう此振茶  
秘死年まをう候えん出ま  
又半まハ末期よ候と云以  
叶菴の勝もあとき山標  
軍もまをこし支離にま入  
傾城とつりくえさる秋の若  
一日のよまよまらうの割 朴  
我も懐向あも懐くを言し

コノサ  
キソク  
ヒカコ  
トメ  
ミコヨ  
コイコ  
ヨス  
カナ  
マワソ

○和あり  
配所 老 躡 秋果 修教 撰集 後編のり 大衆 毒 乙君 潮臣  
罪 老 足 添 狩 松 任 流 標 秋 山  
た 是 水 衣 宗 任 伝 標 秋 山

安永八年正月廿日  
田女  
駒幸も地をかつく酒をあう  
本の得も後もまをうら馬  
引跡るハも味方の好と年  
捕り息の日れ目も遠き 案  
力の林よあうらの遠よりかれて  
あひまや軍とかりんをえと  
よい衣とある任の香肉子  
良とへうなりまあうらまを  
間日よゆ我好怪よ神め色る

ナアヨ  
ミミタ  
ハハミ  
ミワウ  
ムキウ  
ミカア  
ミナマ  
ホキキ  
マア  
キミモ  
コヨタ

そめあうし  
さくさくの刀自  
はしはし年一  
田長 御所  
御所の序  
御杖 大教  
連初堂  
所園 後集  
軍のちを  
くはく

音楽ハ聖なる舞の意をまきん  
右の子子御所の侍者の意すんて  
あまの意をまきんむうの意をまきん  
あつらさハ如壁の心の御合せ  
あまの意をまきんむうの意をまきん  
あまの意をまきんむうの意をまきん  
あまの意をまきんむうの意をまきん  
あまの意をまきんむうの意をまきん  
あまの意をまきんむうの意をまきん  
あまの意をまきんむうの意をまきん

○ 出  
ミミイ  
トミ  
サヒ  
カエ  
クトム  
アサカ  
ミ子ホ  
ユヌム

○和あり 七持  
牙等 大門  
老以 幸願  
弁天より  
布施ハ  
忘八 元日  
朔日 清庵  
二学院 本堂  
栗栖地 斎部  
伊勢 伊豆  
早苗 嘉見  
田村川 恵方棚  
赤地 五山

### 秀國

道向ひよとまはるる  
高きの日も  
淋しき飯を  
蒲原よ欠か  
くえさ  
畔を  
新造の  
終討  
湯





カモヨ  
カモエ  
カスツ  
サヲ  
コニト  
ユスレ  
テマ  
エマ  
ヒホ  
チノツ  
ハイチ

神事 登壇  
雷 殺伐  
おしこもり  
こかく実情  
少きぬり  
かきす  
かきす  
かきす  
かきす  
かきす

神の毘毘りからしる御と九  
狩あつて芝居始まる伝承場の  
麻カキ走カキたつる男を首くつ  
をたぬる乞女おかし  
子の園は二木の原木を  
おまを破へける連交堂  
おまの法をよる疫病  
おまの懐の奇種を  
おまのゆきり牡丹ちる  
おまの祝く伊世治のけり角力  
おまの熱いくまの痔の薬

ヒソア  
ツミハ  
モミウ  
子マノ  
ヨキ  
スヨ  
ユアヨ  
ヒタテ  
ウタコ

○和し いま  
りたつる白  
まゝあ  
所を  
京地名 踊  
田舟 伝偶師  
水鳥 野伝  
津志 津由  
葺狩 仲居  
生力云 万葉  
をま城 亭  
橋 守  
田植 推

日中は暮まらぬ若姑間の箱  
是若のぬく日一歌  
おまのとへぬ伝見の後帯  
おま切さすてさの朝あやめ  
おまのちやめる仲居る京名  
おまのついでる伝の用情  
おまのく揚屋の巨魁伝へる  
川橋一田井のま和布の蝶弾て  
おまのハ田村のまを弄る

# 常仙

アチニ  
コリ  
ナエタ  
ニハマ  
ツアヨ  
ヒマル  
セニ  
ハカチ  
ヒテ  
コテク

女御 今市  
花うらと 葉橋  
施茶 岡伽

揚屋と麻一く  
作らる  
とありし  
点あり  
白中い  
かりし  
り  
り  
り

シニ  
チ  
ア  
イヨコ  
サニ  
ココ  
ソセ  
タク  
ニヌク

○和也 宗梅の  
ちりりりりり  
考へく  
此々も  
上方  
二尊院  
規  
清庵  
端の寮  
定  
豊山  
二軒堂  
うら  
天守

尾去りし  
甚経尺く  
芥橋じ  
女屋の  
此器も  
鮎も  
石草の  
糸あ  
かとり  
任の  
ま細  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

# 宗梅

霊山も  
及り  
そい  
今考  
西行  
古家  
雑駁  
行  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

ヨロマ  
ミケア  
キムナ  
ニヤタ  
ヨヒイ  
フウト  
ラツコ  
ナホタ  
ハヤケ  
クアハ

仲居 山科  
丸山 醍醐  
嵯峨 石場  
之島 津曲  
牧の約 男山  
小倉院 葵  
土牢 入  
夏士 毛平  
修徳の三神  
今川舟  
七(女房)

後舟のふりきり  
朱岩地より結の嵩  
本居町の梅屋  
女房まて  
後へ来らんハ  
津曲  
雷鳴の臺  
南天より  
梓月より  
葉巻  
栗物

イハ  
カマハ  
タソヤ  
ナハコ  
スホナ  
ハキ  
モムヒ  
タアカ  
イ

○強弱  
孝のり  
附  
虎  
鉢  
琵琶  
墓  
生  
つ  
會  
例

醫考  
雷  
代  
名  
涼  
母  
初  
た  
靴

葵足

エツウ  
アア  
メキス  
ミヨス  
マカマ  
ミハ  
サヒ  
ハヨキ  
ハヒウ  
カカク  
カハコ

馬市 瑞系  
後母 美棚  
麩 麻  
牡丹 夏の虫  
古常 古歌  
故事 松之京  
古傳草

枝茂の御歸よまの鳴ー  
消をききまの揚るの井をうつく  
石状う来て母のうり 娘を  
力の秋や 寝年うー じ代代  
まのひ子の 証古様のみつて不  
社口の 海を母年うー くる  
老女の 孝年一人を 位せる  
果ハふか 母ー 畑の 灸をえ  
まの 似るな 此歩 積の 灸をぬて  
孝年うー かくー 葉 瑞  
幅約て 母ハ 葉 麻ぬ 踊の 夜

キヒキ  
セキホ  
イカキ  
ハニサ  
フメキ  
フエメ  
タハテ  
ケヒナ  
ヲアカ

○ 瑞系ととも  
夕のとも  
神さ  
多きよ 仕  
多 多  
舟切の 餅さ  
氷室 多  
小松川 子日  
園 畑  
楮 積塔  
禿 多葉摘

### 菊堂

菊の空 雛も 綿を 着せう  
狐の帯 ひらけを 帆よ 鳴  
岳 積の 厠よ 床を ぬく  
母ひとり 社の 影の 酒 棧 娘  
不二の 田へ 女の子  
海宮の 影を 泊 流の 流う  
その 時を けり 被の 影を 通  
と 影の 秋 灯を 消すと せん 影の 虫  
草 解も あら 影の 影の 肩 車

ワヌウ  
ヨナリ  
コワミ  
ヤコハ  
アサセ  
フナミ  
ヨトマ  
フサコ  
マタマ  
ソコタ  
スヒミ

一里待  
松の肉  
宿引  
名所  
水鳥  
大師  
龍虎作  
雨舎

あめをぬきんく涼しく風晶  
よい松の中よ秋葉の料理札  
弱きハあゆを振て見せる事  
山むらり柳へく涼風の春裕  
芦の葉にさき秋風の清き事  
禁まきく鬼の刺る日ハけぬり  
よいゆよぬきく着ると秋分  
なみ果もる様をさる水が坊  
鞠垣の竿よ衣の在あふひ  
りり着の弱きよと振る蔭聖  
涼しく此の拍子の掛あ市龍堂

○出  
ナハセ  
コハヤ  
スイコ  
タノア  
クミコ  
ハコマ  
土アホ  
千工ヨ  
ハカ

○和くうを  
清島見梅守  
野後 北守  
毒見 千幡  
裡居士 年終  
田牡丹 名進  
茶心 流苗  
宿妻 宿貫  
京 清忌  
牙塔 喰播  
宝舟 祝儀所

# 白頭

小田原へ去る見よある関の人  
是のこよ去つ巻の山折交  
涼しく此の石をかりの掛り灯  
竹馬よ去ても町る 蟻通  
蓄きくはみよサササくこりそ能  
あ庄よ衣をえへく鞠の音  
日吉里のま田のまよ帆う又へて  
意此をと画方一むきくつら  
蔭の死あふ梅首銘列卒の星の上

三ノ目  
ラムワ  
ヒ  
カ  
ツマヒ  
工キニ  
千キ  
千フヨ  
モキハ  
ヨ  
アハニ

本鬼引 餅きし  
宝念仏 牧の物  
野的 罌  
除夜 麻呂  
仲居 桜田  
つと入 宇治  
さくら 松灸  
野間 六社  
冷馬 葛  
津路大き  
あ

師の坊を杖く流ま芳地川  
乱杭へ結ふ新網のこすき  
一雨花千喜い義仲寺  
紙漉し漬流多あう常狩  
夢のあるまう田守の次一瓜  
子と筆きせう棚田の二麦仲  
茶屋一人吉祥岡の唐だう  
地の人よ船出をまの青糸  
元宮ハおもひのかよ喜の悔  
世の新をうう揚屋の下男  
之松の畑の日あこ結う結

ウ  
ク  
ニカト  
モカス  
キナテ  
アヨハ  
ハフコ  
フコヨ  
ヒサイ

○強弱  
松とあふとて  
松ゆよまうり  
漢書一なり  
雪ふよ仕まや  
上方の地ま用  
あ  
井日州 菊  
芙蓉 本屏  
樗 桐  
芭蕉 柳  
罌粟 紅葉

# 笑天

漢書小判をきく持るて  
軍用金のまよの代  
入唐よら多き倍まりり  
本屏の香も這流る源戸  
来て流る奈良の那の寺自悟  
見ハ妮あそと伴路の初俊  
喜ハまそ友よ抄う  
舟まゝ小船さるるサカ地川  
能まゝ松も白あ伴路の秋



トウラ  
ホ  
ト  
廿  
ハ  
工  
ワ  
ム  
ハ  
フ

糸巻 牛巻  
近左地名 蝶  
云 約  
和中散 折掛  
京地名 梅  
草 あり  
十三里  
揚 柳 辰子  
小旗 壱拾料  
賞買の折  
むうーの  
とー

糸巻の上よ新巻くら出あるま  
帷もとあかく夜のあるま河原  
後ともくもと井まらまら  
行ふらある頁の氷のあ  
埴の誘つる南湖のまあま  
英経寺つるまと庫裏ま計仕  
苞うらまらる榎川のま  
ま中のまらまらの明  
まのまらまら唐かま小松川  
まらまらまらまら海雲和布刈

○

サ  
マ  
ウ  
キ  
ト  
二  
フ  
ム  
エ

○和あり  
京地名のうらま  
色来  
ろ申威候  
所  
まつ  
か  
野のう  
尺のう  
ふらら

留倫

柳あると朝の出口のまら  
まらまらの氷はまら切ら  
まら氷は祇名のまらまら  
根園ま傳まらまらまら  
飛柳まら色来まらまら  
まら京地名のまらまら  
まら士指まらまらまら  
まらまらまらまらまら  
新関の薪まらまらまら



夕七  
キコセ  
王廿  
サ十三  
フ十  
Pイ  
父コサ  
子メフ  
ホヨキ  
ヒニク  
カミフ

山姥 軍陣  
替女 年  
馬 毘毘  
本居所 梶  
仲居 赤志  
僧  
らけらよ  
らけらよ  
らけらよ

田村のあやしく云くい 任吉  
糸巡をあらうたはの物と氣寺  
世を本枯子一さくく 咲伊勢  
桜咲く伊よく川かく 虫園取  
舟まておひ海志ありの目よ分て  
△秋日和後山寺子 章魚遊  
棚経をまくり初と母の先掃く  
眠さく目よまきく あり夜毒料  
堂名おと舟のまののさうひこ  
一寐入一て丁をよい 大文字  
物の子をえてびく さい舟座く

原  
コマア  
ソバ  
サニハ  
ト  
コノム  
七七  
ソヨク  
ソヨク  
キフ

○和也  
誰口忘と  
よく考へ  
ガ一あま  
片くく  
地名ハ  
おきお  
行勢 関  
馬 堂  
丹婆 淀  
彦 多羽  
盲人 盲馬  
薪焼 藤

# 連馬

極糸へ又導ききり 梅原あ  
例く 裾を招ける 案内子  
桜ちる 道中 狂女の蛇遊あり  
二年ハ一と一と 狂女 年子  
如命花くまき びくまを抱く之  
誰の節句よ 誰く なるい 産  
信の着世よあきんよこのまねて  
くれてやるまにハ 狂子よ名もあて  
常遊くまをと ありける 新造

カイヤ  
工月ハ  
カヤコ  
ノムセ  
廿  
子三三  
子新ア  
ヨテハ  
サアア  
イコヤ

哲願寺 狂女  
物狂ひ 妖怪  
呪咀 瓦院  
笈 牧の約  
学 女人堂  
鴨 糸  
鉛 糸釣の杖  
尼 泊所  
詩本 津所  
人妖  
人妖

後入きー蘭田のろろ浮石堂  
誘われー襦もつーきき墓系り  
笠にき沖の小舟ハ糸糸尻  
長用とと物ととつる物とと  
懺悔と清きと及とと馬髪  
かーさハ以テのあまの蜷汁  
念仏より唄の所ーき尻り者  
浪の沼出水の簀立蛇踊り  
大よのーこの娘の自枕  
所ーさハ笠瓶取くぬの籠  
一期忌子と子と命を切恵をて

入出  
ホヤ  
イム  
ワモヒ  
マキセ  
ヨミハ  
ヨリハ  
マサヤ  
シヨホ  
ヤセヒ

○強弱交々  
ささりなり  
とかく海とささり  
むつろー  
糸地まき  
ささりあり  
所ーとささり  
少ーちかえあり  
古語ささり  
白味ささりあり  
泊所 夫脊  
郭公 寺

山下の湯は星の流り夫脊の門  
蛇の糸よ一枚をくむる所  
遠夏へ伝る二口ささり沙室守  
まさりささりぬきさの流田の橋  
おろろささりぬき泊所山  
おのぬぬゆよぬとと蓮の花  
夏前よと千坊の山おろろ  
夫山の流りぬきと帆ささり  
糸の花とせんーつろささりぬき

山花

ユニト  
ニリ  
ヤケチ  
イサソ  
イム子  
ユクハ  
コチチ  
アサキ  
アチキ  
アアア  
ホマソ

梓とソカ  
松あよ  
まろくうち  
大甲子  
ゆえん  
○ 松あよ  
まろくうち  
大甲子  
ゆえん

高の飯女房のあまハさきか  
綿のきれハ籠の片ハ腕  
敷入アさふのあまハ籠へ突  
入おハハ梅子ハ籠へ堂  
寺向ハハ梅子ハ籠へ堂  
白ぬさくさく畑の早白  
川を流すてわけあそへ  
羽の積さくハちくさく  
右年ましても籠のあまハけ  
さぬく揚金さくる梅子  
ほくまいたまは流さく畑

ハニ  
ホア  
ホア  
ホイ  
ナナム  
アカ  
ウキ  
ユフ  
ホワヒ

○ 和らかり  
強ハハミ結あり  
強金とあよと  
地あよ  
岩塚 和ら浦  
甲列の地名  
まろく  
色をちよ  
白甲さく  
ゆえん  
短白ハミけ  
まろくうち

高の飯女房のあまハさきか  
綿のきれハ籠の片ハ腕  
敷入アさふのあまハ籠へ突  
入おハハ梅子ハ籠へ堂  
寺向ハハ梅子ハ籠へ堂  
白ぬさくさく畑の早白  
川を流すてわけあそへ  
羽の積さくハちくさく  
右年ましても籠のあまハけ  
さぬく揚金さくる梅子  
ほくまいたまは流さく畑

寛美

○

午ツフ  
 ウクイ  
 カホニ  
 午ニウ  
 五サツ  
 ト十又  
 工マテ  
 ヨヒホ  
 タフミ  
 ウチ六  
 ウエト

撥 爲士

三長かりり

棚牛

聖筆

爰牛

は之の蛇尾の類

臣承の向

機 ぬこ

布

何をもとる馬の  
 たりし家

跋

達長寺ついで一葉ちり二葉入へ  
 内川や多雪の後の輝さくら  
 神奈川の帆越よきれ十二天  
 石班美あつと輝く川原水女  
 向是さされと女の控うま  
 時守あつと輝く川原水女  
 田可寺よまぬく扉と蝶と見て  
 濱川やゆくと木原まの帆と見て  
 棚牛よ管吹川のまぬく  
 うまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 舟のちよぬ根あつと

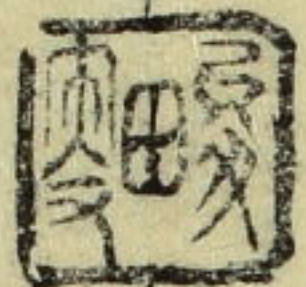
蘇明

蘇明流の春夢佳産蘇墨を貯へ  
 既に春懐夏掛輝皮冬綿を適  
 少きふより流を以て李廷珪  
 羅小華の十万杵の思を當時清秘の  
 判匠等う勝を操るふり作者も亦  
 著く其薫ふ慕あつと東南西北より  
 需多すまをたつと類墨の多し  
 此へともなはんを此玄香子およそ

や帳を解き其香芝蘭の室に  
乃如く如く依り以て寧居菴の坤  
窓に一跋を

岐叟

輝雄



○星運堂誹書目

東叡山下竹町

花屋久次郎

誹諧鱗

江都摠宗匠高点句集

芙蓉散人雪成撰

全後篇

同点式句ノ  
委細ニ記ス

全續篇

存義側ノ点式  
句ノヲ著

全贅篇

古人並退座ノ分  
点式句ノヲ著

全三篇

全四篇

但存義側ハ  
別卷ニ著

全五篇

近刻

四季發句帳

江都摠宗匠發句  
追加御句々入

全後篇

誹諧家雅見種

江都摠宗匠宿所附  
並別号

雪河加案

雪中菴一派宗匠ノ点譜  
並句ノ附合弁句等ヲ著

一枝筌

及故齋果然撰  
高点一座一卷宛

雙猿路談

其角座宗匠ノ  
圖像並弁句

吾妻童

金羅高点句集

双喜會儀

在轉催千句  
総評高点句

野々錦

吉門高点  
句集

多嘉津句理

存義側高点  
前句共

若眼鏡

露十撰  
聞道具ノ歌仙入

薄暮丹

諸君ノ点譜并  
句ノ名印ヲ撰ス

綾錦集

菊正活涼撰古今宗匠系譜  
並点印句ノ等弁句

全後篇

近刻

若眼鏡二篇

近刻

花實集

其角去來誹論ノ  
書

近在所名集

武江近在ニ限ラス東海道  
鎌倉京近在流行ノ所名入

全後篇

種どろ

堤亭撰  
三篇ニテ出来

あまねめ

空馬撰

飾墨

存義側高点  
並聞道具頭書著

あのをら

自在菴祇徳  
高点句集

誹風柳樽

川柳万句合高点ノ書  
初篇ヨリ十一篇ニテ出来

全末摘花

全人万句合末判ノ可笑ノ句ヲ  
画入ニシテ著

不苑

吾山門人咀英撰  
江戸百評高点句

多嘉津句理後篇 近刻

初鴉

存義側高点  
頭書附

下毛

日光紀行  
所名委記 空馬著

風光撰

遊覽志

山城近江地名古歌  
并古人發句等著

羅扇宇葛部著

山東遊覽志

鎌倉金沢江南三浦箱根温泉本の地名  
とて多し古歌并古人の發句も多し全人撰

万句抄

平砂宗匠万句十五点より五十点と  
近刻 高判并極印貞式入 曲双庵撰

柱立

當時流り点丸の洞  
とて多し文字と著一漢述

麦井下東武俳諧集物目錄 星運堂

鹿島紀行 芭蕉翁  
六蹟堂

いといなま 風氣房古歌  
發句本

去のそ途 秋月房  
遺之撰

續万ほとと 秋月房  
撰

夏に曙 秋月房  
撰

そよ風の集 全  
秋月房撰

二  
八

